

# 12

## 浦添スマートシティ (てだこ浦西駅周辺開発地区)

浦添市、沖縄県、日本  
2015年～

新駅設置に伴うスマートシティ開発と分散型エネルギーの事業化

### Key Issue

対象地区は、沖縄本島の人口の約6割が集中する那覇都市圏に位置し、那覇都市圏では慢性的な交通渋滞が課題であった。2003年から沖縄都市モノレール線（ゆいレール）が供用されているが、自動車利用抑制の観点から、更なるモーダルシフトが求められた。また、沖縄県は台風の常襲による災害リスクの高い地区であり、エネルギー供給の点においても安定的な電力の供給が課題であった。

### Project Approach

交通インフラ（モノレール、IC）と都心開発の一体整備を図り都心の自動車交通負荷を削減

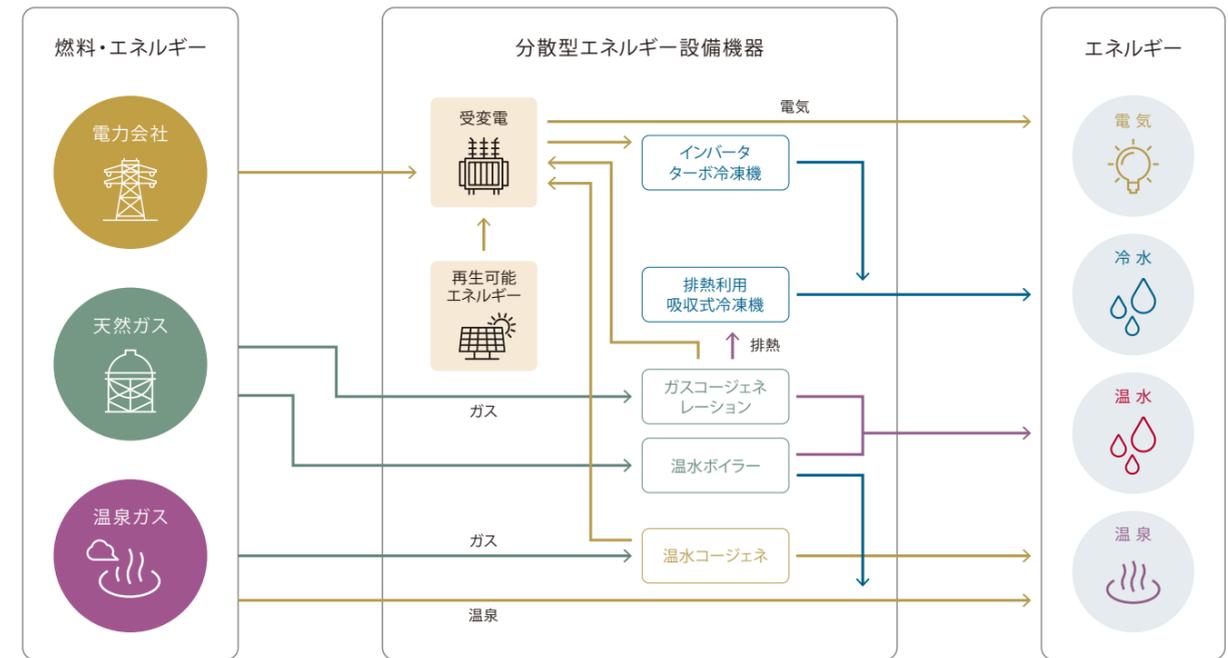
土地開発<sup>\*7</sup>にて、延長された新設モノレール駅の駅前広場やパーク&ライド駐車場を確保し、ICと直結させることで、郊外からの都心への自動車利用から公共交通利用の転換を図った。また、駅前地区に都市開発を誘導する先導施設（商業施設等）を誘致し、土地利用の促進を図っている。

多様なエネルギーの横断利用を可能とするエネルギーセンター

対象地区内への電力・エネルギー供給は、民間事業者が地区内に建設したエネルギーセンターより行われる。このエネルギーセンターは、天然ガス、温泉ガスも活用することで、各施設に電力・冷熱・温熱・温泉を効率的・安定的にエネルギー供給する。また、エネルギー事業の新規開発を計画的に行うため、熱導管の短縮、埋設費用の低減が図られた。



ゆいモノレールは2003年に空港駅～（都心部）～観光拠点である首里駅間の12.9km、15駅が開業した。2019年9月に高速道路との結節点となる「てだこ浦西駅」まで4.1km、4kmの延長が決定した。  
出典：時事



エネルギーセンターでは、電力、天然ガス、温泉ガスを一体的に活用することで、効率的・安定的なエネルギー供給を実現した。  
出典：浦添分散型エネルギー株式会社



延長されたモノレール駅前にパーク&ライド駐車場が整備され、同駐車場は沖縄自動車道のインターチェンジと連結される。

### Data

|        |   |
|--------|---|
| 面積     | 18.6ha  |
| 事業主体   | 浦添市スマートシティ基盤整備株式会社、浦添市、浦添市てだこ浦西駅周辺土地整理組合、浦添分散型エネルギー株式会社 |
| 主な導入施設 | パーク&ライド駐車場、大規模商業施設、エネルギーセンター、教育施設、フィットネス等               |



### To the Next Phase

ガスコージェネレーションの排熱による冷熱供給は、冷房時の電力負荷の平準化を図ることが期待されている。浦添市のスマートシティ開発に伴う地域に適した新しいエネルギー供給システムは、東南アジアなど熱帯・亜熱帯地域への電力・熱供給事業の展開のモデルケースとして期待がかかる。